

議 長	<p>会議を再開します。 (午後 3時05分)          続いて、高良議員の一般質問を行います。3番高良議員。</p>
3番 高良議員	<p>久々の良い天気です。外はたいへん気持ちが良いようですが、この川本町にはなかなか心を許せない問題がいろいろございますので、通告書に従いまして一般質問を行います。</p> <p>質問の要旨は、町民が安心して生活出来る町作りについて問う、でございます。本町は保育所、小中学校はもとより、県立高校、官公庁、病院、福祉施設、商店街などが揃い生活に必要な基盤が整った、たいへん住みやすい町としてとらえておりました。人口減少が進むにつれ、商店がだんだん減ったり、事業継承が為されず閉じられたりして、たいへんその疲弊感が漂っているように感じます。商圏人口の減少や近隣のショッピングセンターへの消費流出の影響等で、廃業される商店もあります。町民の皆さんが生活されている地区に、生活に必要な物品やサービスを確保できる商店の有無は、生活の利便性や安心感に大きな影響を与えます。特に高齢になれば尚更です。自分たちが運転免許証を返納した時の事を想像しながら、施策を進める必要があるのではないかと考え下記の4点の質問を致します。</p> <p>弓市地区の取り組みはどうするのか。因原地区の取り組みはどうするのか。三原地区の取り組みはどうするのか。上記以外の地区についてはどう取り組むのか。以上でございます。</p>
議 長	<p>それでは、高良議員の「町民が安心して生活できる町作りについて問う」に対する、答弁を願います。番外杉本まちづくり推進課長。</p>
番外杉本ま ちづくり推 進課長	<p>高良議員ご質問の、「町民が安心して生活できる町作りについて問う」にお答えします。</p> <p>本町全体のまちづくりについて、分野毎の課題を解決するために取り組んでいる計画につきましては「第5次川本町総合計画」「川本町総合戦略」があり、それぞれに重点項目を定め成果指数達成のため、各課で取り組みを推進しているところでございます。第5次川本町総合計画につきましては、平成22年から30年度までの10年間を計画実行期間としており、5年を経過した一昨年度には、各重点項目の進捗状況を検証し、PDCAサイクルに基づき成果指数を見直し、結果につきまして、本年第1回定例会において議会への報告をしております。一方の「川本町総合戦略」は平成27年から31年度までの5年間までを計画実行期間としており、来年度が計画を総括する年度となっております。この総合戦略につきましては、現計画の次に繋げる戦略の方向性やスケジュールについて、国からは現段階において示されていない状況ではありますが、県においては、次期計画を策定する方向で業務を進められております。本町においても県と同様に、32年度以降の次期総合</p>

番外杉本まちづくり推進課長

戦略を来年度中に策定することとしておりますが、現総合戦略が町全体を対象とした計画であったものに対し、次期計画につきましては、公民館区単位である弓市・因原・三原での地区別戦略を意識した計画を策定し、地域の特色を活かしたまちづくりを推進したいと考えております。

また、その他地区の対策につきましては、定住促進住宅建築の要望を多くいただいている状況にあり、人口減少対策が肝要であること、また、本町への移住希望者から、空き家に関する問い合わせが多いことから、自治会単位で地域の空き家について話し合いをし、一定程度の改修を町が行い、地元と協力して移住者にアプローチする取り組みを、来年度以降検討していきたいと考えております。いずれにしましても、議員ご指摘の各地区におけるまちづくりの取り組みにつきましては、来年度の計画策定において、これまでの町全体をイメージした計画に加えて、地区の実情に応じた取り組みを策定することが肝要であると考えております。以上でございます。

議 長

再質問がありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

たいへんに要点だけの簡略した答弁でありがとうございました。今のは総合的な取り組みで個々の事が具体的に挙げられていない。要は総合戦略と第5次総合計画に書いてあるとおりでという答弁だった訳ですが、近年このまわりを見てみますと、なかなか皆さんのやる気というか勢いというものを感じにくい状況になっていると私は思います。その中で総合的な答弁ですがちょっと個々に私が思うところをやっていきたいと思いますが、まず通告書の1番の弓市地区でございますが、この弓市地区を見ると商店の方にお話を伺っても、「人が通らんようになった」とか、「このままじゃやっていけん」とか、そういう話ばかり出てきます。この先ほど答弁々の中に第5次総合計画の話が出ましたが、総合戦略の中で仕事のところですが、総合戦略の仕事の中で川本町の中の強みのところですかね、強みとして上げてある要素の中で小規模自治体ならではのきめ細やかな支援、商工会との密な連携が可能というような事も上がっております。この商店会の商店をやっておられる皆様の勢いが弱くなったなど感じておる訳ですが、こういう事を当然、商工会の方の方も感じられているとは考える訳ですが、そういう密な連携というのは実際のところされておる訳でしょうか。それを答弁お願いします。

議 長

番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長

商工会さんとは、特に商店街の関係で密に連絡を取らせていただいております。具体的な取り組みで言いますと、昨年度から事業承継の関係で、アンケートをとっていただいて、それに基づいた今後の対策について、これからやっていくところなんです。現在は課題やら現在の状況などを把握しております。来年度以降、ちょっとどういう形になるか未だ分かりませんが、

番外湯浅産業振興課長 商店の方に出向いて行って状況をお聞きするだとか、それに基づいて事業承継をどのような形でやっていくのかだとか、そういったところでの連携を今やりつつあるところがございます。

議 長 3番高良議員。

3番高良議員 事業継承はどうするかは結構ですが、今ある商店の皆様は、このまま商店を続けていかれる状況にあるとお考えでしょうか。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 事業を今後続けていくというところでございますが、これも昨年度アンケートをとったところなんですけど、ちょっとすみません細かい具体的な数字を上手く説明できませんが、自分の代で廃業するだとか、そういった方が多くて今後事業承継をしていく方は、全体で言うと数%程度の方だったというふうに思います。それ以外の方に今後はアプローチしていく必要があろうかと思えます。

議 長 3番高良議員。

3番高良議員 じゃあ、その自分の代で廃業しようとするのか。当然、後継者が居ないとかそういうのは出てくると思うんですが、それで我々というより皆さんが退職されて今後20年後、ここにも通告書にも書いておきましたが、免許証を返納しなきゃあなくなかった時に、いやあれが欲しいな、これが欲しいなと思って、どこへ買いに行くのという世界になりはしないかという事を心配して、こういう質問をしている訳ですが、その止めなければならぬ理由は、その後継者が居られないのか、或いは売り上げが上がらなくなって、その事業として成り立たないのか、そういう分析はされておりますか。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 これもですね、いちばんはお客さんが少なく人口が少なくなったという事で、収益が上がらない。それを自分の子どもにもですね、させたいかどうかという事になると、なかなかそれも子どもに継いでいくような事をしにくいというところで。一番は収入的な事になろうかと思えます。担い手の部分につきましても、先ほど言いましたように親族間での承継というところが、なかなかしにくい。一方、第三者の承継というところも、やはり町内ではなく町外からもやはりそういった動きをしなければ、なかなか難しいんじゃないかなというふうに考えます。

議 長

3 番高良議員。

3 番  
高良議員

それはその通りだと思うんですが、ただ商店さんの方から見られて、それは商売として成り立たないような状況になっているから、それは止めたいと言われるのは、もっともな事でそれは別によく分かる話ではありますが、我々というか、皆さんの行政サイドの方としては、じゃあそうですかって済ませる問題なのかなと。当然、店が無くなるという事は、町民の皆さんが生活にたいへん苦勞されるようになるのは、目に見えております。それは皆さんもよくお分かりの事と思いますが、じゃあそれを店が無くなった時に、町民の皆さんが生活されていく上には、どうい形をとっていくのか。どうすれば皆さんがパッと欲しいものに手が届いて、生活に不自由をきたされないようになるのかというような事も考えていくのも行政の私は仕事ではないかと思うんですが、その辺まで考えておられますでしょうか。

議 長

番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産  
業振興課長

町内ですね、購買の状況を見ますと食品ですとか日用雑貨、こういったところにつきましては60%、或いは70%の方が町内で購入されておられます。一方、衣類ですとか、身に付ける物、そういったところ家具とかいう物も含めて町内の消費というのは少ない状況です。ですので、今後、商店街の活性化、或いは事業承継を考えていく上では、日用品、或いは日用雑貨的な物。それからサービス業、そういった大店舗などとちょっと比較すると、なかなか商売として難しいようなのは、町内において購買の状況においては難しいのではないかなというふうに考えます。ですので、今の空き店舗を活用した事業、或いは事業承継を活用した事業、県の補助を活用して補助を上乗せして有利な事業をさせていただいております。年に1件、2件程度、その事業を実施いただいて、起業或いは事業承継をさせていただいておりますが、そういったところをどんどん進めていきたいなというふうに思います。

議 長

3 番高良議員。

3 番  
高良議員

ちょっと聞いていて、ちょっとよく分からなかったんですが、その施策で地元の消費とか物は上がるんでしょうか。

議 長

番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産  
業振興課長

取り組みとしてですね、日用雑貨、消耗品的な物は皆さん町内で消費されておまして、これは駅前、JAさんですとか、あっAコープですか、そういったところですか、弓市地内のスーパー的な商店さんがやっておられまして、それについては皆さん不自由なく購買されているものと思います。商

番外湯浅産  
業振興課長

店街の小売店につきましては、やはり地域の購買力が落ちているという事で、担い手を確保するだとか、今後も継続的に事業をやっていくという事になると、やはり持続可能性というところは、やはり大前提になってきますので、それはあの持続可能な業種転換だとか改善だとか、そういったところが必要になろうかと思えます。全ての業種でその地域の購買が上がるというのは、ちょっとデータの的には無理があるのかなというふうには思いますが、何れにしても商店の持続可能な施策を進めていく必要はあるというふうには考えております。

議 長

3番高良議員。

3番  
高良議員

持続可能な施策を進めていく必要はあるというところまでは分かりますが、じゃあそれをどうするのかという具体的なところは未だ、なかなか見えて今の答弁ではこない訳ですが、地元というか、この川本町の消費を増やす考え方として、先ほどの一般の日用品は60から70%以上は地元で買われていると。その他の物については、そうではないという答弁でしたが、これを少しでも増やすためには2つの考え方、地元消費を上げるか、外から買いに来てもらうか、そういうような事しか私は思いつかない訳ですが、この先ず一番はその地元消費ですよね、これを上げていく手立てというのを少しでもとる必要がこれからは要るのではないかと。実際に商店が無くなったら困るのは我々なんです。例えばボールペン1個か何でも良いんですが、わざわざ買いにわざわざ車に乗って近場で大規模なショッピングセンターは残るでしょうから、そこまで行くような事を年を取ってからしなきゃならないのかという事を考えると出来れば何でも簡単な物でも近くにあって、さっと歩いてでも買いに行かれるような状況がベストではないかと私は考える訳ですが、そうするとそういう事を考えて地元消費を上げる為には、このままずっと放っておけば、そういう商店が無くなりますよ。そういう状況になりますよという事を町民の皆さんに、もっとPRして出来るだけ地元の商店を使って下さい。でないと、将来はこうなりますよというようなPRというか、そういう事もする事が必要ではないかと思うんですが、その辺の考えはどうでしょうか。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

高良議員、ご指摘はもつともだというふうには思っております。また通告書にございますように各地区でその地域を取り巻く状況とは非常に異なるものでありますので、各地区に応じた展開というものを次期、総合戦略においても考えていかなければならないのかなというふうには考えております。総合戦略自体はですね、人口を維持していく為にどういった手立てを打っていくかという事が前提になるというところでありましてけれども、やはりこうい

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

った商業の部分も一定程度は載せていかなければならないのだろうというふうに思っております。各地区において趣が違うというのは、一番分かり易いのは因原というのはですね、非常に商業が盛んに栄えておるところがあります。大型店舗も非常に大きくたくさんあつていろんな地からですね、行ってみると川本町以外の所からも可成りお客さんが来ておられると。待っておつてもお客さんが来られるような地になっておるといふような状況であるという事を感じておりますが、一方で弓市地区につきましては、逆にそういった所に人が流れて町外に流れていくという所もありますけれども、川本町内の一部地域に流れておるといふ状況もあるんだらうというふうに考えておりますが、この地区を弓市地区を考えますと、やはりここには島根中央高等学校という学校があつてですね、この弓市地内に寮生80人が暮らしております。また通学で70人の生徒が毎日通学をしておるといふ状況でございます。そういった流動的に入ってくるものに対するですね、アプローチの仕方があるのではないかと、それともう一つはですね、当然、人が来ていただくという手立ても考えていかなければならないんですけれども、やはりこちらの方から打つて出ると、所謂、買い物支援とかですね、弓市の商店街さんが川本町の他の地に対する買い物支援という事をどう考えられるかということも、これは行政だけが考える事ではなくて、商工会と一緒に考えていかなければならないというふうに考えておりますし、先程来出ております事業承継という問題で、これはそういった問題でいろんな観点から解決できる食の産業であるというふうに考えますけれども、小売りの部分から見ると先ほど言いましたような、今度、打つて出るといふような事も考えていかなければならないのではないかとこのように考えております。また一方で三原でございますが、ここはそもそもの店舗数が少ないという事があります。要は三原の地とですね、やはり弓市を繋ぐといふような、そういった取り組みつていふものが今後ちょっと考える上では必要になってくるのかなというふうに考えております。

議 長

はい、3番高良議員。

3番  
高良議員

たいへん今から聞こうという事を先に答弁していただきましたが、正に今、課長が言われたとおりで、他地区との連携これもたいへん必要な事です。今、因原等々の話も出ましたが、この因原という所は、ちょっと未だ弓市の話が終わってないのに、ちょっと因原へいくのは何ではあります、これは後で纏めてお話をする事にして、因原というのは今、答弁にもありましたように、非常に外からくる方で商店は成り立っております。地元の商店さんつていふのはガソリンスタンドさんがあるぐらいな事で、特別これといふふうな他にはありません。ただ、先ほどちらっと杉本課長の答弁にありましたが、これ基本的には人口問題なんですよ。人口が増えるとどこも何も言う事は無くなる訳ですが、この人口減少という事がある事によってこういう事が起きてい

3番  
高良議員

るという事は、これは紛れもない事です。そういう切り口から見ますと因原も決してその商店はありますが、じゃあ地元に住んで居られる方は増えているかという、私はそうではないように思います。なかなか将来の事を考えるとどうも聞くところによると厳しい状況にあるようでございます。これは総合戦略だったかなとは思いますが、因原地区に定住住宅を増やして云々という言葉があったような記憶が有るわけですが、その辺はどうなっておるんでしょうかね。総合戦略のでしたね、住まいのところで因原地区等への宅地造成を進めます、と書いてある訳ですが、これは書いてあるという事は「やりますよ」「やりたいですよ」或いは「やる計画ですよ」と捉える訳ですが、進捗状況はどうでございましょう。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

これは非常に1つの思いがあって明記した部分でございます。尾原地区に今後進んでいくであろう所謂、宅防事業が行われた場合にですね、そこをいろんな意味で今、宅防事業というのは家だけを上げるというような事業展開が殆どであるという事もありました。ただ町としては有効な土地でありますので、そういったところを面で上げていただいて、そういったところにこういった定住促進住宅を建築したいという思いを持って明記をしたものでございます。

議 長

再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

という事で、これは事が成就した場合は進めていくという理解でよろしゅうございますか。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

そういう思いで進めておりますが、実際にはその時点での状況を鑑みながら、判断をしなければならぬというふうに思っておりますが、この時点での計画の段階では、こういった文言がなければ1つには国、県共に理解をいただけないのではないかとこのころがあって、文言としては追加をしておるといふところがございます。

議 長

再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

人口問題が先ほどから言いますように、この人口問題が一番底辺にあります。これを如何にクリアするかという事で、可成りの問題はこのうちの町が持っている問題はクリア出来ていくのではないかと思います。これは国、県の受けを狙ったという言葉は悪いかも知れませんが、そういう文章であった





議 長 請願の全体ですか。どの部分。

3 番 8月の1日の受理が議会の方ではなっておりますが、「中心市街地の持続  
高良議員 的発展に関する請願書」でございます。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま いわゆるゾーニング分けしたものでの請願であったというふうに把握をし  
ちづくり推 ております。今現在ですね、弓市地区につきましては、魅力化検討委員会と  
進課長 いうものを設置しまして、町長の行政報告にもございましたが、ワークショ  
ップを進めているという状況でございます。ご意見としてはいただいて、議  
会の方で趣旨採択をされたというところでございます。行政としては行政と  
してですね、実際に住民の皆様の意見を聞くワークショップを開催しておる  
というところで、これは様々な意見がございます。これも道路の問題、それ  
から公園の問題、商店の問題、多岐にわたった問題が挙げられているという  
ところがございますので、それが実際にマッチングしているかどうかという  
ところも含めて、年度内にはちょっと整理をしていかなければならないとい  
うふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。3番高良議員。

3 番 年度内には整理されるという事でございますが、その今されているワーキ  
高良議員 ングショップですが、この手の取り組みは過去何回もあった訳ですが、川本  
町においてはそれを持ち帰って会議の話し合いは随分されるんですが、その  
話し合いに出た結果に基づいた行動をされるというパターンが、過去、非常  
に私の記憶では少なかったと思うんですが、今やられているワークショップ  
については、そういう事が無いように、出た結果については必ず行動が伴う  
ような事を、ワークショップについてはしていただきたいと思えます。先ほ  
ど出ました商工会さんのその考えを出されている訳ですが、そのワークショ  
ップをやられるのは結構ですが、私が見る限り地域分け、分野別に地域分け  
をすとか、そういう考え方は別に特別悪い考えでも無いであろうし、それ  
によって家を全部動かすとかそういう事じゃございませんので、それはやっ  
ぱりそれは基本的には、あれは紙で出ているもんですから実際に会われて根  
本のところはどういう事を考えておられるのかというような事は、方や今、  
商工会さんの方はそっちのプロでございますし、こっちは行政としてそれが  
どこの辺で手を握り合って折り合っているかという事を、探っていくのは  
我々の仕事ではないかなと思えますので、その辺の取り組みは私は進めてい  
く必要があるのではないかなと思えますが、まちづくり推進課の方としては  
それはただの要望としておかれるのか、その辺のちょっと考えをお聞かせ下  
さい。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 ひとつには町をゾーニング化するというところについては、都市計画における用途別の所謂、建坪率であるとか、そういったものを取り決めるという意味では、非常に必要なものであろうという事は考えておりますが、今、現在ワークショップをやっておるところでいきますと、そこをゾーニングするという意識は余りなくてですね、やはり個々においてこういった部分に憩える、高齢者が集える場所があれば良いんじゃないかとか。駅の部分の要素としてはこういったものがあれば良いんじゃないかとか、そういった意味の物が多く出されているというものがございます。商工会さんが出されたゾーニングっていうのは、或る意味の都市計画に基づく用途地域を新たに決めていくという意味では必要であらうというふうに考えておりますが、そういったものは関係課と含めてまた協議が必要であらうというふうに考えております。それからご指摘ございますが、ワークショップで議論された事をなるべく実現を具現化していくようにという事がございます。ひとつの思いとしては、正しく行政だけがやるという意識ではなくてですね、この取り組みによってやはり住民グループというものが出来ないかなという思いがあります。そういった住民グループが自主的にそういった活動を行っていくというような事が出来ないかというところを模索しながら、このワークショップを進めておるといふ状況にございます。

議 長 3番高良議員。

3番高良議員 分かりましたが、ただ1点、住民側からいろんな取り組みが出てきて、それを行政が支援をするなり後押しをするというような事は、それは確かに人口が多くて未だ元気な町にはそういう取り組みが出来るんですが、人口が減ってくるとなかなかそういう取り組みはしづらくなります。そういう場合はやっぱり行政側からこういう方向はどうですかというような目的を出していくようなやり方も当然、必要だろうし、その行政の方から町民を巻き込んでいくような取り組みもしなければ、いけないのではないかと思いますので、ただ皆さん出して下さいいじゃなしに、「こういうのは如何ですか」、「こうしませんか」、「この方が良いんじゃないですか」というような目的、目標を出していくような取り組みもこれからは少しされていかんと、結局、何も出てこなくなってしまうような気がしますので、その辺も取り組んでいって欲しいと思います。それで、ちょっと弓市が長くなりすぎた訳ですが、三原に関してちょっと1点お伺いしたい事があるんですが、ファミリーマートが三原に出店をしたいというような話があったと聞いておりますが、その辺の事実関係をちょっとお聞かせ下さい。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産  
業振興課長

ファミリーマートがですね、地域貢献という主な目的なんですが、買い物弱者、買い物支援というところで今、県内の自治体に向けてそういった動きがありまして、川本町にも来られましてお話を聞きました。そこから先は未だ具体的に決まっている訳ではありません。その時に地区を2つ、3つ、お話をして、こういったところもありますよねというような所においておまして、その先に或る業者さんが地元の企業がですね、ちょっと検討してみるというところでのところまでいっておりますが、未だ具体的には何も決定した事項はございませんが、そういった問い合わせなり検討なりがあった事は事実です。

議 長

3番高良議員。

3番  
高良議員

三原の地区におきましても今、2件ですか商店さんが有りますが、この後、皆さん私より年が多いので、その30年と続けられる訳は失礼ながらですが、通常、常識で考えると無いと思う訳ですが、そうした時にそこも無商店地区にならないようにする為には、こういう話があった時は速やかに出来る出来ないの話はこちらで決める訳ではありませんので、むこうの土俵の上にはなる訳ですが、作っておかれた方が新たに新しい方が商売しますよっていう手を上げるような状況であれば、それはそういう必要は無いとは思いますが、でも今、見る限り、そういう事が急に起こるような可能性はちょっと少ないなと見えますので、そういう事をしておいた方が、その地区に住んでおられる皆さんにとっては役に立つのではないかなと思いますので、そういう話があればなるべく進める方向で対応していただきたいと思います。

次に、その他の地区ですが、今、弓市と因原、三原の事は触れた訳ですが、その他、例えば三大字、矢谷、三谷、三俣地区という地区もある訳です。もっと小さくいけばもっともっとある訳ですが、そういう地域の方々が安心と安全と言いますか、普通に買い物したいとか、これが要るから買いに行きたい。或いは税金を納めるとかいろいろあるとは思いますが、そういう方々が安心して生活出来る為には、どういう事をすれば良いと考えておられますでしょうか。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

ひとつには大きな課題の内の1つ、大きな課題であるというふうにご考えておりますが、今現在ですね、そういった買い物の困難な地域で非常にもてはやされているのは、そのスマホとかインターネットを使った買い物というものがございまして、これが中山間地域の高齢者に馴染むかという、そういったものではないというふうにご考えております。ここは、やはり買い物支援というのは1つ大きな課題で解決をしていかなければならないというふうにご思っていますし、そこでやはり先ほど言いましたように弓市の商店とですね、

番外杉本まちづくり推進課長　　そういったところをどういった形で繋がっていくかというのは、分からないですけれども、これからの検討になって参りますが、1つには何らかの形で常に訪問される民政委員さんの方と連携するとかですね、勿論ここでは商工会等も連携も非常に密になってくると思いますけれども、そういった模索はこれから検討していかなければならないというふうに考えております。

議　長　　3番高良議員。

3番高良議員　　そのスマホで注文というのは、今現在おられる高齢者は、多分それは難しい面がいろいろあると思います。将来の高齢者ですよ。皆さん方ですわ。例えば我々議員の年代はダメです。タブレット導入でも反対意見が多数出ましたので、そういうのは無理だろうと思いますが、我々より下の世代、皆さん方の世代ですよ、そういう方が高齢者になられた時は、それは不可能な問題では私は無いと思います。だから今ダメだからしないんじゃないに、例えばもう10年先、15年先、20年先、やっぱりこういう事は先を見て今手を打っておかないと、じゃあ明日からやりますよって出来るもんじゃありませんので、心の中に準備をしておいて、そういう状況が来た時にパッと対応するのは直ぐ出来るというんですが、それは事前にその準備があるからであって、そういう準備は当然、私は行政としてしておかなければならないだろうと考えます。そういう事を含めてそのネットで発注するとか、例えばぜんぜん発想を変えて野菜とか肉の自動販売機を置いておくとか、今から技術が発達すれば当然、可能な事だと思いますが、そういう事とかいろいろ私の貧弱な発想では出ませんが、皆さんの良い頭でしっかり考えていただいて、こういう事は出来るではないか、じゃあやる為にはどこと協力すれば良いか、どこと手を繋いでいけば良いかというのも考えられて、じゃあ必要な支援があるのであれば、どういう支援をしていくのかという事まで考えられて、実際出来るような施策を考えられていく、というのが私は大変必要な事だと思います。個々の事はこれで終わりますが、トータル的に先ほどの答弁で各地に即した展開を考え、何が必要かを考えていくという課長の答弁でございましたが、これをなるべく早く揃えて機能できるようにする事が必要と考えますので、だいたい何時までにやろうという気でおられるのか、その辺の意気込みを課長でも町長でもよろしゅうございますので聞かせて下さい。

議　長　　番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長　　1つには先ほど言いましたように総合戦略がですね、来年度が1つの区切りの年であるというところでございます。総合戦略というのは2060年までのですね、人口推計を45年後に2500人に止めるといったところを大きな計画目標としておりますので、31年までの5年間で終わるものではなく、その2060年まではずっと継続していかなければならない戦略なんで

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

あろうというふうに考えておりますし、この27年から31年まで実施した総合戦略においてもですね、一定の効果はあった、であろうというふうに思っております。次期に繋げる戦略として、これは32年度からスタートするとしておりますので、どこまでそういった状況に関するところに踏み入れるかどうか別としてですね、やっぱりそういったところには触れなければならないというふうに考えております。これは32年からスタートする計画でございますので、来年度中には策定したいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。3番高良議員。

3番  
高良議員

はい、いろいろと申し述べてきましたが、これは先ほどからずっと言っておりますが、これは皆さんがここに居られる課長さん方がもう20年先、高齢者になられた時に困らないようにする為のものでございますので、自分の事だとしてしっかり腹に入れていただいて、取り組んでいただけるようお願いしまして、私の質問を終わります。

議 長

以上で、「町民が安心して生活できる町作りについて問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、高良議員の一般質問を終了します。

々

ここで、5分ほど休憩を入れます。15時05分より会議を再開します。  
(午後 2時58分)